

防木ジャーナル

THE BOSUI JOURNAL

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

10

2013

No.503



特集

- 塩ビ系シート防水は今
- 太陽光発電設備の現状と防水施工

ガラスブロックからの漏水

鈴木 哲夫

外壁に構築したガラスブロック窓では、一般にアルミ製の枠回りをシーリングし、ブロックの目地を白セメントで詰めるため、目地不良やシーリングの劣化が漏水原因と疑われることが多い。しかし、果たしてそれだけだろうか。

ガラスブロック回りの漏水原因がつかめないという相談があったので調査したところ、いくつかの問題箇所が見つかった。

- ①ガラスブロックのアルミ上枠に辿り着く下がり壁に複数のひび割れがあった(写真-1)。
- ②躯体の上にサンドモルタルと調整モルタル層があり、アルミ枠上部のモルタル詰めには隙間と湿りがあった(写真-2)。
- ③上下アルミ枠は突付枠でメタルタッチ部がシーリングされており、下枠に設置された水抜き孔が塞がれていた(写真-3)。
- ④ガラスブロック目地内部には湿りがあり、湿りを追うと上枠に至った(写真-4)。
- ⑤窓台はタイル張りでシーリングが上向き施工されており、タイル裏とシーリング裏に湿りがあった(写真-5)。

以上の調査結果から、図-1に示す漏水ルートがあり、対策として以下のすべての処理を行わないと漏水が再発することになる。

ルート1 = 窓台タイルを撤去して窓台を下げるとともに水抜き孔を解放させ、窓台の防水処理とサッシ枠下端で横向きシーリングに変更

ルート2 = 適正な厚さでシーリングを打ち替える

ルート3 = モルタル目地を撤去し、適正な厚さのシーリング目地に変更

ルート4 = サッシ枠と躯体との取合い部にシーリングを行うとともに、躯体のひび割れ止水注入処理を実施



写真-1 ガラスブロック上部の下がり壁に数本のひび割れ

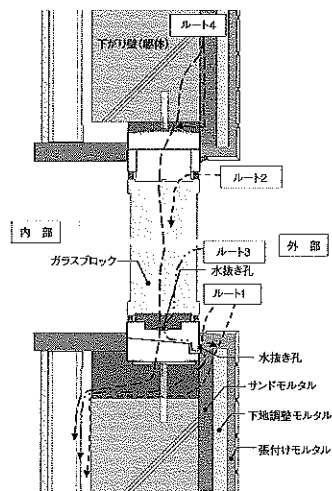


図-1 現状のガラスブロック回り断面図

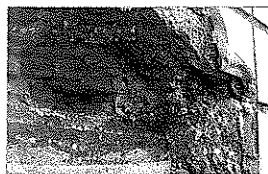


写真-2 アルミ枠上部にモルタル詰めの際の隙間あり

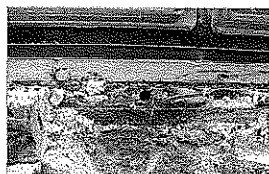


写真-3 閉鎖されていた水抜き孔

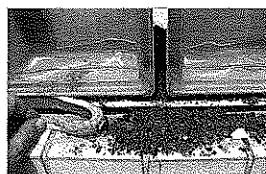


写真-4 ガラスブロック目地の湿り

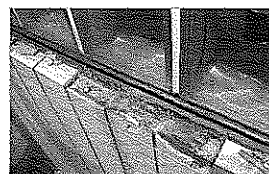


写真-5 窓台のタイル張り裏に湿り

このケースでは、サッシ枠の上下ともにモルタルの詰めが甘く、枠と躯体の取合いにシーリングがなかったことや水抜き孔をモルタルで塗り込んで閉鎖したことが致命傷であった。一旦ガラスブロックに雨水が辿り着くとあみだくじのように水が移動する。目地処理やシーリングの劣化が原因のように見えて、実はそのほかにも施工不良による漏水ルートが存在していた。

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役社長)